



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会  
Japan Association of Microscopic Dentistry

# マイクロエンドを 極める

開催日時 | 2026 4.17 金 14:00 START

場 | ビジョンセンター新宿マインズタワー 定員 | 講演会 懇親会  
所 | 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-1新宿マインズタワー 12F 110名 114名

辻本恭久  
先生

清水藤太  
先生

村野浩気  
先生



申し込み締切 | 2026.4.3 金 17:00 参加費 | 講演会 8,000円 懇親会 12,000円

## 日本顕微鏡歯科学会 『JAMD 公認プレカンファレンス 2026』 マイクロエンドを極める

2026年4月17日(金)、ビジョンセンター新宿マインズタワーにて、JAMD 公認プレカンファレンス 2026 が開催されました。今回より本プレカンファレンスは日本顕微鏡歯科学会の公式セミナーとなり、定員 110名の講演会場は熱気に包まれました。

本年度のテーマは「マイクロエンドを極める」です。歯内療法分野の第一線でご活躍されている村野浩気先生、清水藤太先生、辻本恭久先生の3名をお招きし、臨床に直結する実践的な講演が行われました。

### 講演 1: 村野 浩気 先生

#### 演題: 「マイクロスコープは歯内療法の何を変えたか」

村野先生は、「マイクロネイティブ世代」としての視点から、外科的および非外科的歯内療法におけるマイクロスコープの真の価値についてエビデンスを交えて解説されました。

外科的歯内療法においては、マイクロスコープ、MTA、超音波を組み合わせたモダンテクニックにより成功率が飛躍的に向上することを示しつつ、不十分な逆根管形成や見落としといった過去の失敗要因を顕微鏡下で確実に把握し解除する重要性を指摘されました。

非外科的治療においては、発見が困難なマイクロクラック(亀裂)の診断や、上顎大臼歯のMB2をはじめとする余剰根管の探索における顕微鏡の優位性を提示されました。

実際に顕微鏡の使用によりMB2の発見率が向上し、見落としによる病変発生リスクを低減できるデータを紹介されました。

最後に、マイクロスコープという強力なツールを最大限に活かすには、解剖学的知識や治療の原理原則の深い理解が不可欠であると強調されました。

## 講演 2: 清水 藤太 先生

### 演題:「ミクロな視点からのマイクロエンド、マクロな視点からのマイクロエンド」

清水先生は、抄録の演題からさらに踏み込み、「ミクロな視点」と「マクロな視点」という2つの独自のアプローチからマイクロエンドを極める方法を提唱されました。

ミクロな視点としては、上顎大臼歯の MB2 や DB2、下顎前歯の 2 根管など、微細な構造の探索と処置における顕微鏡の必須性を豊富な症例で解説されました。

さらに時間を割いて強調されたのが、マクロな視点である「足し算のマイクロ使用法」です。

難症例や髓床底の精査といった特定のステップだけでなく、麻酔やラバーダム装着といった日常の基本処置であえて顕微鏡を活用することで、患者に無痛治療と高い安心感を提供できると語られました。

この実践には、術者の自由なポジショニング(患者の頭を立たせるなど)と、その動きにフワフワと追従する「回転軸を持った」機材の選択が不可欠であり、臨床に直結する実践的なアドバイスを送られました。

## 講演 3: 辻本 恭久 先生

### 演題:「一博学多才こそ最強の治療」

辻本先生は、日本顕微鏡歯科学会設立からの歩みを振り返りつつ、長年の研究と臨床に裏打ちされた多角的な知見を披露されました。

特に興味深かったのは、日本人(モンゴロイド)特有の解剖学的形態の解説です。

槌状根(約 54%で発現)や下顎大臼歯のラディックス・エントモラリス(遠心舌側根、約 30%)、第一小臼歯の単根(約 80%)などの複雑な形態が EDAR 遺伝子の影響でどう生じるかを紐解き、CBCT と顕微鏡の併用の重要性を示されました。

また、NiTi ローターファイルの超弾性(オーステナイト)や形状記憶(マルテンサイト)といった特性を理解した上での器具選択のポイントを解説されました。

さらに、次亜塩素酸ナトリウムの危険性について警鐘を鳴らし、メチレンブルーと光を用いた活性酸素(ラジカル)による安全で確実な殺菌方法や、MTA を用いた組織再生のメカニズムに至るまで、まさに「博学多才」な知識が次世代の歯内療法を牽引する最強の武器になることを力強く語られました。

## 総括・懇親会

3名の講師による充実した教育講演は、各 50 分という時間があっという間に感じられるほど濃密なものでした。

マイクロスコープというツールの進化と、それを扱う術者の知識・技術の向上が両輪となってこそ、次世代の歯内療法が切り拓かれることを再認識する大変有意義なプレカンファレンスとなりました。

講演会終了後の 17 時 30 分からはバルバッコア新宿店にて懇親会も開催され、参加者と講師陣による活発な交流が行われました。本セミナーの開催にあたり、ご尽力いただきました講師の先生方、ならびにご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。







